

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト 平成 26 年度事業報告書
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

1. HAHT チームの活動の実施

■在宅訪問

土・日を基本にプレイワーカーと看護師がペアになり、月 4～5 回程度の訪問を行う。(ご家庭により、学生ボランティアの同伴あり) 2～3 時間の間、プレイセラピー・ミュージックセラピーを行い「こども時間」として、その子供の発育年齢・能力・興味・疾患的特徴の合わせた楽しい取り組みを行った。

■わくわくタイム (デイケア)

月 1 回、広いプレイスペースをお借りし、プレイワーカー・音楽療法士・看護師・ボランティアが、数組のご家族の皆さんを招待し季節を感じるイベントなどを行った。

開催実績

開催日	テーマ	参加ご家族数	開催場所
9 月 27 日 (土)	第 1 回：手作り楽器、公園へお出かけ	5 家族 17 名	関西国際大学
10 月 25 日 (土)	第 2 回：バーベキュー	7 家族 28 名	関西国際大学
11 月 22 日 (土)	第 3 回：クリスマスオーナメント制作	8 家族 27 名	関西国際大学
12 月 20 日 (土)	第 4 回：クリスマス会	2 家族 6 名	関西国際大学
1 月 24 日 (土)	第 5 回：お正月遊び	5 家族 15 名	関西国際大学
2 月 28 日 (土)	第 6 回：思い出の会・お母さん合唱	8 家族 25 名	関西国際大学

■わくわくプレスクール (デイケア)

月 1 回、広いプレイスペースをお借りし、プレイワーカー・音楽療法士・看護師・ボランティアが、就学前の「お兄さん・お姉さん」になりゆく子どもたちに見る・聴く・触る等の感覚の土台をしっかりと創りながら「さまざまな感覚や刺激を受け止められる力」「自分の想いを周りに出す力」「感じたことを人と共感できる力」を目標にし、数組のご家族の皆さんを招待し季節を感じるイベントなどを行った。

開催実績

開催日	テーマ	参加ご家族数	開催場所
9 月 13 日 (土)	第 1 回：元気体操・家族クラフト	4 家族 12 名	大阪市立光陽特別支援学校
10 月 11 日 (土)	第 2 回：お誕生日会	3 家族 10 名	大阪市立光陽特別支援学校
12 月 13 日 (土)	第 3 回：クリスマス会	4 家族 12 名	大阪市立光陽特別支援学校
1 月 10 日 (土)	第 4 回：模擬授業体験	4 家族 11 名	大阪市立光陽特別支援学校
2 月 14 日 (土)	第 5 回：マジックショー	9 家族 32 名	大阪市立光陽特別支援学校
3 月 14 日 (土)	第 6 回：閉会式	7 家族 24 名	大阪市立光陽特別支援学校

■チルドレンズトラベルメイト

普段自宅にこもりがちなお家族に、外出のきっかけや友達作りの機会を提供。プチ旅行には、看護師やヘルパー等の資格を持つスタッフが同行。地元の企業や慈善団体などの協力を得て、日ごろは経験できないような小旅行を行った。

開催実績

開催日	テーマ・訪問先	参加ご家族数
10 月 25 日 (土)	わくわくタイムと共催でバーベキュー：舞洲	7 家族
11 月 1 日 (土)	「USJ からのご招待 2014 年秋」・ユニバーサルスタジオジャパン ：ユニバーサルスタジオジャパン様よりご招待	5 家族

12月13日(土)	ユニクロ様より店舗へご招待 Utime : ユニクロ大阪	3家族
-----------	------------------------------	-----

■特別支援教育

平日の関西大学へ訪問支援、子どもの病気や状態に合わせて、看護師・プレイワーカー等の専門知識を持ったスタッフが対象の子供が通う学校へ訪問し学習活動サポートや他余暇休暇のサポートのコーディネートを行った。さらに、難病児の義務教育以降の就学に向けた冊子を作成した。

2. ビリーブチーム（遺族支援）の活動の実施

子どもを失った経験をもつボランティアが子どもを失った遺族を訪問や、電話でお話をお聞きしサポートを行った。又、月1回依頼者に適切なサポートを行うための研修を開催した。

訪問回数 2回、電話相談 1回、研修7回

3. 公開セミナー

第2回 公開セミナー「TSURUMI こどもホスピス会館にむけて」開催

3月22日(日) 大阪市中央公会堂 大集会室 来場者数 351名

第一部 LIVE DEEP 病気を持つ子どもと家族にとって

「こどものホスピス」が大切な理由

第二部 TOGETHER FOR

地域で支える「こどものホスピス」を目指して

第三部 特別公演 クラウンによるパフォーマンス

(日本ホスピタルクラウン協会)

感謝状の贈呈

閉会の辞

懇親会

4. あそびかた研究会

タケダ・ウェルビーイング・プログラムの助成を受け、こどものホスピスプロジェクト・しぶたね (Sibling Support たねまきプロジェクト)・あそぼっくるの3グループが共催し、病気を持つ子どもやその家族のことや、あそびの情報交換や新しいあそびのアイデア等学ぶために立ち上げたプロジェクト。

開催実績

【研究会 8回】

・第1回 参加人数：26名

日時：2014年1月31日(金) 19時～20時半 場所：都島センタービル6階会議室

テーマ：あそびかた研究会のお話と音楽あそび体験

講師：こどものホスピスプロジェクト 岡崎 伸、重山直子 (音楽療法士)

しぶたね 眞利慎也

あそぼっくる 河本奈津希

内容：前半はあそびかた研究会についての話と、共催団体のそれぞれの活動内容について。後半は音楽療法士の重山さんによる音楽あそび体験。集団で輪になっての音あそびや歌あそび、楽器を使ったあそびを体験。

・第2回 参加人数：28名

日時：2014年2月28日(金) 19時～20時半

場所：大阪市立総合医療センター3階 大会議室

テーマ：遊びの種類と使い方～目的に合った遊びを選ぶ～

講師：リレーションアドバイザー 澤田智茂

内容：前半は人との関係作りについてとその方法。後半はアイスブレイキングゲームの紹介とその実践。

・第3回 参加人数：20名

日時：2014年3月14日（金）19時～20時半

場所：大阪市立総合医療センター3階 中会議室

テーマ：お仕事にもっと使おう腹話術—今日からあなたもプチ腹話術師—

講師：腹話術師 やないあつ子

内容：腹話術においての声の出し方、人形の動かし方のコツを学びながら、簡単な手袋人形を使った実践。新聞紙で作る折り紙芝居のやり方とその実践。

・第4回 参加人数：29名

日時：2014年4月25日（金）19時～20時半 場所：都島センタービル6階会議室

テーマ：絵本にのせて届けたいもの～小児病棟での読み聞かせから～（絵本・手遊び・小道具いろいろ）

講師：絵本ボランティア ぼんぼこぼん

内容：前半はぼんぼこぼんの活動と、絵本の読み方・選び方について。後半はフェルトでつくる「2羽のことり」の作成とそのあそびかた（歌あそび）の実践。

・第5回 参加人数：21名

日時：2014年5月9日（金）19時～20時半 場所：都島センタービル6階会議室

テーマ：iPadでコミュニケーション！～お絵かき、絵本など、タブレットならではの一味違う楽しさを体験しましょう

講師：NPO法人支援機器普及促進協会 ATDS 高松 崇

内容：前半はiPadの説明と今後のタブレットの可能性について。iPadのできるあそびのアプリの紹介。後半は2人で1台のiPadを使って、実際に色々なアプリの体験（ぬりえを取り込んで動かすアプリ、指でなぞった線が線路や楽譜となり電車を走らせたり音楽を奏でたりするアプリ、取り込んだ写真を色々編集して動かすアプリ 等）

・第6回 参加人数：20名

日時：2014年6月6日（金）19時～20時半 場所：都島センタービル6階会議室

テーマ：きょう楽しいことがあしたの元気

講師：にこにこトマト 神田美子

内容：前半はにこにこトマトの活動の紹介と、京大病院小児科での取り組みについて。後半はにこにこトマトで実際におこなっている墨絵あそびの実践（墨を使って半紙や色紙に古代文字の羊を書いたり、墨を手塗りに付けての手形作成）

・第7回 参加人数：20名

日時：2014年9月5日（金）19時～20時半 場所：都島センタービル6階会議室

テーマ：あそびを通して心に触れる感じあう～“ことば”と“こころ”と“からだ”のプログラム「ここからだ」～

講師：影絵人形劇団むむのこ コミュニケーションワーク・インストラクター

橋 まゆみ

内容：最初に「ここからだ」の紹介のあと、アイスブレイキングの実践。ワークショップとして紙コップでロパク人形つくりと指人形でのロールプレイ等の実践。今までの活動で使った絵本の紹介と、絵本をもとに身体を動かすあそびの実践。

・第8回 参加人数：45名

日時：2014年10月3日（金）19時～20時半

場所：大阪市立総合医療センター3階 中会議室

テーマ：ムッシュ香月のわくわくこどもランド

講師：四条畷学園短期大学 保育学科 講師 香月欣浩

内容：前半、後半とも新聞紙フリスビー、新聞紙ボウリング等の工作や、全員でのあそびうたの実践など、ワークショップ中心の講義。

【あそびかたフェスタ】 参加人数：午前・午後併せて139名（一般参加者・ご家族参加者・ブース出展者・当日ボランティア・スタッフ含む）

日時：2014年8月2日（土）午前の部10時～11時半 午後の部13時～16時

場所：大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール

出展：出展ブース：10ブース、ステージ：3グループ

内容：午前の部と午後の部にわけて開催。午前の部は大阪市立総合医療センターの6・7階の小児病棟に入院中の児を対象とし、感染リスクを防ぐため一般の参加者を入れないシークレット開催とした。午後の部は事前に受付をした病気を持つ子どもとご家族、ボランティア等を対象に開催。近畿近郊のボランティアグループが出展する10のブースと、大道芸、音楽療法士の音楽あそび体験、絵本の読み聞かせタイムなどの3ステージを用意し、子どもたちや参加ボランティアに楽しんでもらった。また多くのボランティア団体に参加してもらうことで、それぞれのボランティア団体との交流を深めることができた。なお、当日のボランティアは、普段あそびかた研究会に参加されている方より募集し、あそびかた研究会ブースでのあそびの紹介担当や受付、会場補助をお願いした。

【公開講座】 参加人数：45名

日時：2014年11月15日（土）14時～17時半

場所：関西国際大学 尼崎キャンパス 5階 501 講義室

テーマ：あそびをサポートすること～セラピューティックレクリエーションの考え方から～

講師：公益財団法人そらぶちキッズキャンプ プログラムディレクター

若野貴司

今回は関西国際大学尼崎キャンパスの学祭「HEART フェスタ 2014」の中のイベントとして、学祭実行委員会の関西国際大学 HOOP との共催で開催した。

内容：前半は実行委員会 HOOP の学生からの挨拶と、岡崎よりあそびかた研究会についての説明。後半はレクリエーションの定義についてとセラピューティックレクリエーションについて、あそびをサポートするための様々な分析とヒントなどを教わった。

5. ニーズインタビュー

インタビュアー2名（看護師 保健師）が60～80分の半構造化面接を実施し、こどもが在宅療養へ移行する～在宅生活になれるまでの時期、CHP活動に参加してからの時期での困り事、助けになったこと、あればよかったもの、今後のCHP活動に期待することなどを自由に話してもらい、語られた内容を類似する文脈ごとにタイトルを付けてニーズ分析を実施した。

インタビュー期間 2014年10月～2015年3月

対象 こどものホスピスプロジェクト活動（わくわくタイム・HAHT等）に参加中または過去に参加したことがある家庭27家族28件（1家族のみ親とこどもを別々にインタビュー実施）母へのインタビューが中心。

疾患 非がん疾患 20例 ・ がん疾患 8例

医療的ケア あり 10例（人工呼吸器・気管切開・吸引・胃ろう・酸素療法・自己注射など）

なし 18例

以上